

技術と教育

Education and Technology

技術教育研究会



電気実験終了！（宇都宮大学）

目次

Education and Technology • 530

■特集 技術科教員養成の現状と課題■

岐路に立つ技術科教員養成	丸山剛史・尾高進	1
工学院大学における技術科教員養成	尾高進	3
芦屋大学における技術科教員養成の現状と課題	藤本光司	5
東京農業大学教職課程技術科教育における「ものづくり」教育	熊澤恵里子	7
三重大学教育学部技術・ものづくり教育講座の現状	松岡守・中西康雅	9
鹿児島大学における技術科教員養成の課題とその取り組み	坂田桂 浅野陽樹	11
宇都宮大学教育学部の技術科教員養成の現在	丸山剛史	13
佐藤史人さんとの思い出	佐々木英一	15
常任委員会の動き		16
事務局だより		17

2018年2月

通巻 第530号

芦屋大学における技術科教員養成の現状と課題

藤本 光司

1. 技術科教員養成コースについて

本稿では、芦屋大学（以下、本学）の技術科教員養成課程が設置された経緯を概説する。また、教員免許状の取得状況や教学の課題、さらには大学院との関連について述べる。

本学は、昭和39(1964)年に教育学部教育学科の単科大学として創設した。それ以降、産業教育学科、英語英文教育科、児童教育学科を増設し、昭和61(1986)年に技術科教育専攻を産業教育学科内に設置した。その後、いくつかの改組を経て平成23(2011)年から2学部3学科となった。表1に本学で取得できる教員免許状を示す。技術科教員養成については経営教育学科の「技術・情報科教員養成コース（以下、本コース）」が担い、今年で31年目を迎える。2000年頃からの教員採用試験氷河期においては学生募集に苦慮した時代もあったが、その間、多くの技術

科教員を輩出し、現職教員や教育行政、高等教育機関で活躍している。

2. 学校で求められている技術科教員の育成に向けて

本コースの教学の特徴は、教職の課程認定に必要な専門領域の専任教員(9名)に加え、技術科と工業科で実務経験のある非常勤教員(8名)で構成している。これら全ての担当教員がチーム（Team技術）として、授業や会議で連携し、多様な学生への共通理解や採用試験合格に向けて協働している。本学では、3年生から専門ゼミを開講し、学生の希望（材料加工や電気、情報分野など）に応じて、各学生の専門性向上のために少数制ゼミを実施し、主体的で深い学びの仕上げとしての卒業論文作成を目指して指導している。また、本コースは、1年生後期から、「設計・製図」と「加工材料の特性」の2科目を開講し

表1 芦屋大学で取得できる教員免許状

学部名	学科名	中学校免許	高等学校免許	幼・小学校等免許
臨床教育学部	教育学科	社会(一種)	地歴、公民(一種)	
		英語(一種)	英語(一種)	
		保健体育(一種)	保健体育(一種)	
		職業指導(一種)	職業指導(一種)	
経営教育学部	経営教育学科	技術科(一種)	情報科(一種)	小学校(一種)
				幼稚園(一種)
				特別支援(一種)
短期大学	幼児教育学科			保育士 幼稚園(二種)
大学院	教育学研究科 前期博士課程	教育学修士 各教科の専修免許		
	教育学研究科 後期博士課程	教育学博士		

ている。

一方、教員採用試験対策として3年生から教員採用試験対策講座を開講している。一般教養と教職教養は全学的に、技術科の専門教養についてはTeam技術の教員が、実技や実習、模擬授業を交えながら教員としての知識理解を深めさせている。

次の①～③は、本コースがめざす、教育現場で求められる教員像であり、本コースのTeam技術の教員が人物育成の指標としている。

- ① 高い専門性：教科の内容に関する知識・理解、教職に関する知識・理解
- ② 確かな指導力：授業設計、授業技術、教材開発、生徒指導、学級作り、ICT活用
- ③ 強い情熱：教職に対する使命感と誇り、生徒に対する愛情や責任感

3. 過去5年間の免許取得者数および輩出状況

本コースの学生募集について、下記のような戦略を実施した結果、現在では1年生から4年生で100名以上の学生が技術科教員免許の取得をめざしている。その概要を表2に示す。なお、表2の「中等教科教育法〔技術〕」は、3年生に設定した科目である。

- ・文系大学でありながら、教職課程として技術科の免許を取れること。
- ・兵庫県内では唯一、関西でも珍しい技術科

教員免許が取得できる私立大学であること。

- ・採用試験の合格率が高いこと、教員としての定職率が高いこと、そのニーズが高いこと。
- ・中学校技術・家庭科研究大会（県や近畿地区大会）に広告を出し技術科教員にPRした。
- ・京阪神を中心に、各教育委員会から教員採用試験一次試験免除枠を頂いていることをPRした。

神戸市：2名、大阪市：2名、大阪府：3名、堺市：2名、大阪府豊能地区：1名
京都市：3名、川崎市：1名、以上、合計14名分 ※平成30年度募集実績より

- ・京阪神地域の公立中学校で、学生ボランティアとして活動させていることをPRした。

4. まとめ

これまで近畿地区から入学生が多くを占めていたが、最近は全国から受験していただいている。18歳人口の受験生に加え、他大学からの編入や社会人からの学び直し、他教科の教員免許を取得済みで編入してくる学生など、本コースに在籍している学生は多様化している。課題としては、加工系の実習授業で定員オーバー（概ね、10名が限度）であり、授業の配置に苦慮しているのも事実である。他方、大学院教育学研究において専修免許を取得する学生も増加傾向にある。

表2 芦屋大学における技術科教員養成の状況と卒業後の定職数など（過去5年度の実績）

中学校技術科コース												※教職教育支援センター 調査より 2017年12月現在	
卒業年度	教員採用試験					中学校技術科の専修に就いた学生					教科教育法〔技〕		
	教員免許取得者	採用試験受試者数	卒業時教員志望	現役合格者	現役合格率	卒業時に正規採用	卒業後に正規採用	常勤講師として勤務	定職率（志望者含）	定職率（志望者含）	前期取得	後期取得	
2018(H28)年度卒	17	13	12	7	54.0%	7	1	4	12	100%	32	25	
2015(H27)年度卒	13	11	11	8	72.7%	7	3	2	11	100%	20	20	
2014(H26)年度卒	8	8	7	4	50.0%	3	3	1	7	100%	21	20	
2013(H25)年度卒	3	3	3	1	33.3%	1	1	2	3	100%	14	12	
2012(H24)年度卒	4	3	3	2	66.7%	2	2		3	100%	5	4	
合計	45	38	36	22	55.3%	20	10	9	36	100%	92	81	